



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 7, 85-88
Issue Date	1981-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/25577
Type	other
File Information	7_P85-88.pdf



研 究 室 報

講 義 題 目 (昭和55年度)

学 部

独 語 学 概 論		塩 谷 饒
独文学史概説		青 柳 謙 二
独 語 学 演 習	Gedichte (前期) Lyons: "Noam Chomsky" (後期)	E. Kleeberg 植 木 迪 子
独 文 学 演 習	Schnitzler: "Leutnant Gustl" (前期) Kunz: "Die Novelle unter dem Einfluß des Romans" (後期) Stanzel: "Typische Formen des Romans"	青 柳 謙 二
独文学演習 (1)	Frisch: "Mein Name sei Gantenbein"	R. Blesch
独文学演習 (2)	Immanuel Kant	R. Blesch
独 語 学 II	Sprachübung (前期) Deutsche Landeskunde (後期)	E. Kleeberg H. Wunderlich
独 文 学 II	Schiller: "Wallenstein" (前期) Brecht: "Das epische Theater" (後期)	R. Blesch

大 学 院

(修 士 課 程)

独語学特殊講義	Schlieben-Lange: "Linguistische Pragmatik"	植 木 迪 子
独文学特殊講義	Keller: "Hadlaub"	新 妻 篤
独 語 学 演 習	"Entstehung der neuhochdt. Schriftsprache"	塩 谷 饒
独 文 学 演 習	"Geschichte der Literaturwissenschaft" "Einführung in die neuere deutsche Literaturwissenschaft" "Literaturwissenschaft und Methode"	青 柳 謙 二

(博士後期課程)

独語学特殊演習		塩 谷 饒
独文学特殊演習		青 柳 謙 二

昭和 5 5 年 度 論 文 題 目

卒 業 論 文

- 馬 場 英一郎 「ドゥイノの悲歌」について
- 鈴 木 将 史 エーリヒ・ケストナーの児童小説について
- 寺 田 龍 男 Über das Verhältnis zwischen den mhd. Modalverben
und dem Präfix "ge-" in den Verben "gesîn" und
"gewesen" in "Der Nibelunge Nôt"

修 士 論 文

- 佐 藤 厚 ドイツ語動詞の Passiv について
- 田 中 剛 「魔の山」～ 文化価値と精神病理
- 藤 本 純 子 ホフマンスタール「むずかしい男」

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行なう。
 - 1) 機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同する者によって構成される。
5. 本会員は上の活動の遂行のため所定の会費を支払う。
6. 本会は1名の会長と若干名の幹事をおく、幹事は会計および編集委員を兼任する。
7. 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。
8. 本会の事務所は北海道大学文学部独語独文学研究室におく。

研 究 室 行 事 記 録

- ◎ 昭和55年2月18日に、昭和54年度卒業論文・修士論文発表会が、文学部第一会議室で行なわれた。
- ◎ 昭和55年7月10日に、第6回合評会および総会が、独語独文学研究室で行なわれた。
- ◎ 昭和54年は、次の2回の研究会がもたれた。
 - ・ 7月21日 (百年記念会館)
 - 佐 藤 厚 : 「受動態について」
 - 川 島 淳 夫 : 「ドイツ語の発音について」
 - ・ 12月 6日 (百年記念会館)
 - 岸 川 良 蔵 : 「非人称代名詞 es の用法について」
- ◎ また、昭和55年は、Freiburg 大学 Gerhard Kaiser 教授を迎え、コロキウムが、北大文学部で開かれた。

Kaiser-Kolloquium (5月7日～9日、文学部第一会議室)

5月7日

- ・ Einleitungsreferat: Über das Zentralthema des "Grünen Heinrich" (G. Kaiser)
 - ・ Reale Mutter und ideale Mütter im "Grünen Heinrich" (M. Tsukuwa)
 - ・ Der tote Vater und Vaterfiguren im "Grünen Heinrich" (Y. Takahashi)
- 5月8日

- ・ Anna und Judith (T. Satō)
 - ・ Der grüne Heinrich zwischen Dortchen Schönfund und der Mutter (Y. Nakagawa)
 - ・ Einleitungsreferat: Ein kleiner Überblick über die japanischen Literatur (S. Yamanaka)
 - ・ Einige Merkmale über die moderne japanische Literatur (J. Ozaki)
 - ・ Das Ich bei dem Autor Natsume (J. Shibuya)
 - ・ Das Vaterbild in der modernen japanischen Literatur (Y. Itō)
- 5月9日

- ・ Die Problematik der Kinderspiele des "Grünen Heinrich" (M. Ueki)
- ・ Die autobiographischen Schreibsituationen des grünen Heinrich in München und am Schluß des Romans und Kellers Schreibsituationen am "Grünen Heinrich" (A. Niizuma)
- ・ Die Geburt der modernen Familie in der Literatur der Klassik und Romantik (A. Kittler)

会 員 名 簿

青 柳 謙 二	○梅 津 真	佐 藤 俊 一	対 馬 晃
伊 藤 智	小 沢 幸 夫	◎塩 谷 饒	藤 本 純 子
伊 藤 祐紀子	加 藤 寛 蔵	神 久 聡	三 浦 国 泰
石 川 克 知	川 島 淳 夫	瀬 川 修 二	山 田 恵 子
石 橋 道 大	川 東 雅 樹	瀬 野 文 教	山 田 貞 三
岩 井 洋	岸 川 良 蔵	高 橋 吉 文	○山 田 善 久
岩 田 聡	佐 藤 厚	田 中 剛	渡 辺 千 枝 子
植 木 迪 子	佐 藤 修 子	田 中 俊 明	

◎は会長 ○は幹事

独 語 独 文 学 科 研 究 年 報 第 7 号

昭和56年3月1日発行

発 行 者 北海道大学文学部独語独文学講座

編集委員 山 田 善 久 梅 津 真

連 絡 先 北海道大学文学部独語独文学研究室内

〒060 札幌市北区北10条西7丁目

印 刷 所 北海道大学生協プリント部